

アイソスの
回文かるた

す
ま
し
た
み
み
み
た
し
ま
す

す

first message from ISOS



*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。



澄ました耳 満たします。

注意深く、熱心に聞こうという姿勢があれば、身近にいる同僚や先輩の方々から指導を受けることで、自分の力量を上げることができます。

ISO9001:2000 の審査が始まり、以前にも増して審査員の力量が問われる時期にきています。それだけに審査員の方々の勉強熱も高まっているようです。審査の勉強は、やはり実際の現場かあるいはロールプレイで、スーパーバイザーから直接訓練を受けるのが一番身につくと言われています。しかし、このような上級者からの直接指導を受ける機会を得ることができるのは、審査員をじっくり育てるポリシーをもつ審査登録機関のプロパー審査員くらいでしょう。日本で働く審査員の7割は、プロパーではなく、契約審査員です。契約審査員は、自分が在籍する審査登録機関に頼らず、自ら審査の腕を磨く機会をつくらなければなりません。

そこで皆さんがおやりになるのが「勉強会」です。審査員が集まって、規格解釈について意見を述べ合ったり、審査事例を発表し合ったりして情報交換を行うという方法です。こういった会合で情報は集まるでしょうが、力量の向上についてはいかがなものでしょうか。力量を高めるには、訓練が必要です。訓練は、自分よりレベルの高い人から指導を受けなければなりません。自分の同僚や先輩で、自分よりレベルの高い人はいるはずですが、自分よりほんの少しだけレベルが高い人であっても、その人から訓練を受けると、やはり効果があります。謙虚でかつどん欲であれば、そういう人が必ず見つかります。「OJTの機会がない」「よい指導者に巡り会えない」といった不満を言う人に限って、ただぼんやりと出会いを待っている人が多いものです。また、「少しレベルの高い人」から指導を受けることに抵抗を感じる人もたくさんおられます。こういった人たちは、どうせ訓練を受けるなら、権威のある大先生から受けたい、絶対間違ったことを言わない人から受けたいと考えています。超大物を探しているのに、いつまでたっても見つからないのです。

もっと気軽に指導者を見つけ、気軽に訓練できる場を設けるべきではないでしょうか。自分を指導してくれる人が上にいて、自分が指導する人が下にいると、自分の審査員としてのレベルがだいたい見えてきます。訓練の場が増えてくるにつれ、私たちが日頃きわめて曖昧な基準で使っている「審査のレベルが高い」とか「審査の質が低い」といった表現に客観性がそなわってきます。